

2022年2月27日

2021年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究者育成費
研究成果報告書

所属：政策・メディア研究科

学年：修士課程2年

学籍番号：82024733

氏名：龍花慶子

研究課題名：デュオ・エスノグラフィーによるファッションの解釈

1. 研究概要

本研究は、ファッションの概念を再創造することを目的とする。ファッション産業における筆者の約30年に及ぶ経験を「わたしの物語」として記述し（プロセス1）、それを媒介として対話を行い（プロセス2）、その記録を振り返り再解釈する（プロセス3）三つのプロセスを通じて、経済価値と消費が支配的であるファッションの解釈を問い直すことを試みる。プロセス2において、対話に参加する2人が観察者と被観察者の関係ではなく、共に主体となるエスノグラフィーの手法（デュオ・エスノグラフィー）とその考え方を採用し、筆者が記述した「わたしの物語」を媒介に対話を行う。この対話が、筆者と対話者の双方に視座の変化をもたらし、その変化を通じてファッションの新たな解釈が生まれることを意図する。

2. 本年度の研究成果

ファッションの現状を「再帰的近代化」という歴史的状況に位置付け、次に、ファッション研究における問題として、ファッションをつくる、ファッションを着る経験をその内側から、人間の営みとして捉える解釈枠組の不在を指摘した。これらの議論を踏まえ、ファッションの概念を再創造するために、3つのプロセスによる生成的循環を研究の方法としてデザインし実践を行った。プロセス1では、記憶の断片を拾い上げながら、筆者自身が「ファッションをつくる」実践者として経験した、1980年代の後半から現在の約30年にわたるファッションの社会的世界とその変容を、約9万字、40シーンから構成される「わたしの物語」として著述した。「わたしの物語」は、「わたし」がどのようにファッション産業の社会的世界を経験したのかを、経験の内側から生々しく著述したものである。プロセス2では、双方が主体となる対話者との協同をおこなった。対話者に「わたしの物語」を読んでもらうことに加えて、筆者が作成した40枚のカード（図1）に対話者がコメントを書き入れ（図2）、それらに対話者の視点でグルーピングしてもらった。その上で、対話を行い記録

した。カードは、「わたしの物語」のシーンごとに、キーワードをハガキ大のカードに落とし込んだものである。

| | | | |
|------|--------------------------|------|--|
| ID-# | 記述日 | ID-4 | 2020/5/31 |
| | 通し# (時系列) | | 11 |
| | WHEN | | 2001/9/11 |
| | WHERE | | 東京神宮前、キャットストリート、ニューヨーク、6thアベニュー、グラマシーパーク |
| | WHO | | わたし、パイヤーの後輩、ショールームのスタッフ、ニューヨークの友人たち |
| | タイトル | | 2001年9月11日 |
| | Keywords 1 (出来事、行動) | | テロ、タクシーが捕まらない、ビルが吹っ飛ば、サイレンの音、聞き耳、歩く |
| | Keywords 2 (もの、時代背景) | | 煙でグレーの空、パニック、パトカー、黄色いテープ、ビル封鎖、爆破予告、悲鳴、走る人々、噂、灰を被った人々 |
| | Keywords 3 (感情、意味) | | 不安、恐怖、死への意識、足が震える、緊張 |
| | Keywords 4 (社会/産業の構造と慣習) | | 出張禁止 |
| | Keywords 5 (評価) | | Keywords 5 |
| | Keywords 6 (テーマに対する考え) | | Keywords 6 |
| | MEMO | | MEMO |

図1 6分類したキーワードを流し込んだカードの例 (ハガキ大サイズ)

| | |
|------|---|
| ID-6 | 2020/9/1 |
| | 16 |
| | 2006年 |
| | 東京神宮前3丁目 |
| | わたし、ビジネスパートナー、投資家 |
| | 共感とコミュニティ |
| | 新しいビジネスのスタート、最大のリスクをシュミレーションする、持ち株売却、お店のロケーション探し、事業計画、資金調達、会社設立 |
| | 貯金、創業資金、土地 |
| | 誰のひげの道 |
| | Keywords 4 |
| | Keywords 5 |
| | 共感、コミュニティ、近いライフスタイルや人生観、ヘア・美容・健康・食・ファッションそれぞれのプロフェッショナル、忙しい女性が自分のための時間を過ごす、自分を振り戻せるような場所、成熟、業界で働く女性のたち、共有し繋がる場所が見えてくるお客様、個性、ネットワーク、情報、不便でも顧客が通う店、健全 |
| | MEMO |
| | シェア・女同志の連帯、フェミニズム |
| | 格差社会、買えない女性の世界外感という |
| | ファッションの向きとどう扱うか? |
| | コミュニティ |

図2 <シーン16: 共感とコミュニティ>のカードへの対話者によるメモ

プロセス3の対話の記録を振り返る実践を通して、現在の「わたし」が、自己が過去に行った「経済活動」という意味づけを明確に自己認識し、「経済活動」というファッションへの意味づけから解放される変化がおこった。これらの変化により、多くの「別のわたしの物語」

の可能性と、何度でも書き換える可能性、そして多様な選択肢の中にファッションの新たな概念の萌芽を見出した。おこった変化と発見を、「わたしの物語」と対話の記録を引用しながら提示し、変化した「わたし」が最終シーンに新たなパラグラフを付け加え、「わたしの物語」を書き換え、振り返りを締めくくった。

研究の結論として、経済的な価値としてのファッションから、人間の創造の営みとしてのファッションへと、ファッションの概念を再創造し提示をした。そして、本研究を実践してきた「わたし」自身の模索する姿勢と方法を「再帰的創造 (Reflexive Creation)」と名付け、一つの創造のあり方として提案した。

最後に、プロセス1で著述した「わたしの物語」を、論文の枠組みを超えて開いていきたいため、作品としてデザインし、関係者に配布できるようプロトタイプを作成した(図3)。本の装丁は、「閉じる(綴じる)ではなく開く」、「書き換え続ける」、「重ね合わせる」という研究の姿勢と方法を表現している。この物語を単に分析対象としてまなざすだけではなく、より多くの人に、ファッションの社会的世界の景色を共有し、ファッションとは何か、「ファッションをつくる」とは何かを、「わたし」と共に感じ、考えて欲しいというのが筆者の想いだ。



図3 作品としてデザイン及び制作した「わたしの物語」

3. シンポジウムにおいて口頭発表の実施

龍花 慶子、「ファッションの概念を考察する：ナラティブ・アプローチによる「わたし」の経験の再解釈から / Reflecting on the concept of fashion: a narrative approach to the reinterpretation of the experience of "me"」

International Conference & Workshop A/R/P(Art/Research/Practice) 2021、於東京芸術大学、2021年10月

以上